

ネットいじめ言説の布置と共起関係の変化

—新聞記事の計量テキスト分析から—

田 川 隆 博

Changes in the Constellation and Co-occurrence Relationships in Cyberbullying Discourses: Quantitative Text Analysis of Newspaper Articles

Takahiro TAGAWA

This paper aims to clarify how cyberbullying discourses have changed in the constellation and co-occurrence relationships. There are few studies on cyberbullying discourses. This study used quantitative text analysis as its methodology, and analyzed 279 articles in the *Asahi Shimbun*, one of the five national Japanese newspapers, that included the keyword “cyberbullying.” This study quantitatively captures words included in articles on cyberbullying and analyzes them. The results of the analysis are as follows. In the past, the term “mobile phone” was frequent, but after 2014 it no longer came out on top. The term “smartphone” is now replaces the term “mobile phone.” The term “underground school website” stopped appearing after 2011. Cyberbullying discourse is now often referred to as “trouble.” Cyberbullying discourse has changed from the underground school website to LINE and SNS, but it is consistent in terms of inside type.

Keywords: cyberbullying discourses, quantitative text analysis

1. はじめに

近年、いじめはインターネットや携帯電話と切り離して論じることが難しいくらいであり、ネットいじめという語も定着してきた。ネットいじめについて、態様や対策も次々と論じられ、ネットいじめ言説も多数生み出されているし、生徒指導上の課題としても提起されてきている。本研究は、そうしたネットいじめ言説の特徴や変化を描き出すことがねらいである。いじめ研究の多様な蓄積の中でネットいじめに関する言及もまた近年見られるようになっている。

学校裏サイトやそこで生じるネットいじめにいち早く着目し発言してきた下田によれば、ネットいじめは、発信の広がりや広範囲で、場所は不特定、記録性があり、加害者の特定はできないという特徴を持つ（下田 2008 : 108-109 頁）。加害者の特定ができないという点は、当時のネットいじめが匿名的な空間で行われているという指摘（実態）に基づいたものであり、現在の状況とは異なる。しかし、ネットいじめのもつ新しいリスクと、それゆえのネットいじめ

対応の難しさについての指摘については、現在に通じる論点といつてよい。

一方で、ネットいじめについては不安視する言説が過剰だとする議論もある。たとえば荻上は、裏サイトが有意義に使われている例をメディアが取り上げることはほとんどなく、負の側面ばかりを強調するような論調が多いことや、子どもにネット上で自由なコミュニケーションをさせること自体への社会的な不安を見出すことができるということを指摘していた（荻上 2008 : 45 頁）。

いずれにせよ、子どもたちの間にインターネットが幅広く浸透し、コミュニケーションの中心に位置し、有意義にも有害にもなるという点は理解しておきたいが、メディアのとらえ方がある種の偏りを持つのだとしたら、それを明らかにすることには意味があるだろう。

内藤は、メディアのもたらす俗流ヴァーチャル論に対し、「ネットいじめ」のイメージがバイアスを孕みながら増殖していく点に注意を促している（内藤 2016 : 175 頁）。内藤は、マスメディアの発信する「近ごろの〇〇は、おかしくなった」は、ただの言葉であると同時にイメージ商品であるとも言い（内藤 2016 : 176 頁）、内藤の言に従えば、その新たなバリエーションとしてインターネットが語られるということになる。そこで、本研究ではメディアにおけるネットいじめのとらえ方がどのようなものであったのかを明らかにしていきたい。内藤の指摘する俗流ヴァーチャル論を本研究ではネットいじめ言説と呼び直し、その言説のあり方を検討していく。

ネットいじめ言説の研究という点については、それほど多いとは言えない。ネットいじめ言説の質的分析（田川 2012 ; 香川 2013、2016）において、言説の特徴などが指摘されてきた。特に本研究と関連するのは、新聞記事の内容を分析した田川（2012）であり、ネットいじめ言説の特徴を、①ネットいじめの現状：急増、悪質化、深刻化、②ネットいじめの方法：学校裏サイト、プロフ、SNS、動画、③誰でも加害者／被害者になる、④ネットいじめは発見が難しい、⑤ネットいじめから守れ、という5つを見出している。

それに対し、本研究が目指すのは、ネットいじめ言説の量的分析である。時系列に記事数や使われるワードを量的にとらえて整理・分析する。ネットいじめ言説を計量的に分析した研究は、管見の限りない。これまでの質的分析と対をなすものとして、量的分析を加えることで、ネットいじめ言説の特徴をより客観的にとらえることができると考える。

ネットいじめ言説において使われる語の布置の推移、語の共起関係の分析を通して、ネットいじめ言説の構造を可視化することが本研究の目的である。人々の認識の中に漠然とあるネットいじめ言説のイメージを、具体的に可視化することで形を与えたいと考えている。

2. 方法

今回の言説分析においては、朝日新聞記事を利用する。記事の検索収集にあたっては、朝日新聞記事データベース聞蔵Ⅱを利用した。そこでネットいじめをキーワードに記事検索を行った。その結果、2018年12月13日現在で310件の記事がヒットした。これらの記事を1つ1つ検討した結果、イベント告知のみの記事については、ネットいじめのキーワードは含んでいないが、報道というよりお知らせだと判断し省いた。また1996年の記事が2件ヒットしたが、イ

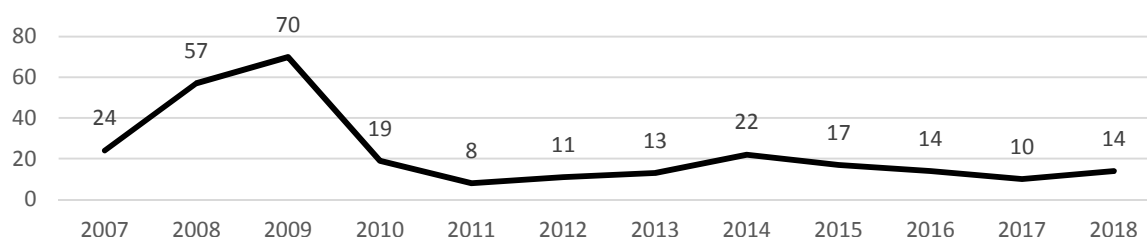
インターネットいじめ相談という記事と告知記事であり、ここ10年ほど問題化しているインターネットを利用したいじめという意味でのネットいじめに関する記事ではないため、この記事は除外した。その結果、残りの279件の記事について分析を行うこととする。

計量テキスト分析にはKH Coder²を利用した。計量テキスト分析では、個々の記事の質的な内容より、語の数や語の結びつき等を計量的に分析することに特徴がある。

3. 結果と考察

(1) 記事数の変化

図1 ネットいじめ記事数の変化



ネットいじめというキーワードを最初に含む記事が登場したのは2007年1月だった。記事数の変化は、図1に示すとおりである。2007年に24件、2008年に57件、2009年には最多の70件の記事があり、この時期にネットいじめが社会問題化したと見ることはできるのではない¹。

その後は、2011年の8件を除き、10～20件程度で推移している（2018年は12月13日現在の件数である）。

(2) 頻出語分析

次に、頻出語について見てみよう。「ネット」「生徒」「学校」「携帯電話」という語が上位に来ているが、その後には「調査」や「教委」、「対策」などが並んでいる。また、「高校」が377回出現しており、「中学校」200回、「中学」171回となっている。「高校生」113回、「中学生」113回となっていることから考えても、「高校」と「中学」で同程度の言説化が見られると言っているのではない。また、「生徒」が694回出現しているのに対し、「児童」は206回である。3倍以上の差はあるが、「児童」の登場順位が22位で比較的上位ということを考えると、小学校においてもネットいじめが論じられることは少なくないと言えるだろう。

「携帯電話」が出現回数402回で7位であるのに対し、「パソコン」については出現回数97回で78位とそれほど多くなっていない。ネットいじめは、やはり携帯電話との関連で論じられることが多くなっている。

¹ ただし、これを朝日新聞の記事数のみでいうのは難しいだろう。他のメディアも含めて総合的に検討する必要があるが、2000年代後半にネットいじめをテーマにした書籍も次々と刊行されているという点については指摘しておきたい。

表1 抽出語上位150					
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
ネット	995	行為	144	監視	85
生徒	694	掲示板	140	減る	85
学校	615	関係	138	守る	85
県	547	親	137	実態	84
子ども	457	女子	135	市立	83
調査	408	社会	132	アンケート	81
携帯電話	402	被害	131	教授	80
高校	377	悪口	130	紹介	80
教委	341	学校裏サイト	130	市	79
問題	340	見る	128	結果	78
教育	318	ルール	127	雇用	78
対策	300	思う	127	行動	78
年	296	認知	127	削除	78
サイト	291	内容	124	大人	78
月	289	委員	123	男子	78
相談	262	写真	122	指摘	77
保護	259	報告	121	取り組み	77
情報	252	昨年	120	担当	77
暴力	223	自分	120	前	73
県内	219	対象	118	フィルタリング	72
書き込み	214	書く	117	特別支援学校	72
児童	206	個人	116	把握	72
インターネット	202	書き込む	116	ほか	71
メール	202	教員	114	始める	71
中学校	200	高校生	113	推進	71
持つ	190	中学生	113	発表	71
自殺	189	実施	111	教諭	70
話す	189	授業	109	国	70
携帯	188	子	108	使用	70
対応	186	場合	105	文科省	70
利用	181	地域	104	県警	69
説明	178	家庭	103	方針	69
中傷	176	開く	103	意見	68
使う	175	市教委	102	参加	68
受ける	175	教師	101	深刻	68
人	173	研究	101	作る	67
全国	173	危険	100	小中	67
件数	172	言う	99	相手	67
中学	171	パソコン	97	特定	67
トラブル	170	支援	95	機能	66
指導	167	犯罪	95	今回	66
小学校	156	知る	94	解決	65
防止	151	活動	91	確認	65
増える	150	LINE	90	市内	65
多い	149	予算	90	専門	64
必要	148	小中学校	89	スマホ	63
公立	147	文部科学省	87	全体	63
事業	147	求める	86	大阪	63
前年度	146	禁止	86	答える	63
考える	145	世界	86	事件	62

「暴力」「自殺」「中傷」などいじめとの関連性が指摘されていることについて、ネットいじめ記事においても比較的上位に来ていることも読み取ることができる。

「女子」が135回出現しているのに対し、「男子」は78回と1.73倍の違いが見られる。

表2 上位語年次変化		2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014		2015		2016		2017		2018	
抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数
ネット	101	ネット	210	ネット	233	ネット	58	ネット	32	生徒	37	ネット	37	ネット	86	ネット	55	ネット	60	ネット	33	生徒	44	ネット	54
生徒	79	生徒	134	風	220	生徒	43	対処	18	ネット	33	子ども	33	子ども	35	対処	45	生徒	30	風	29	生徒	40	生徒	53
学校	64	携帯電話	123	学校	172	学校	36	人	15	学校	32	学校	32	学校	34	生徒	44	生徒	29	教科書	29	教科書	17	学校	41
インターネット	41	学校	119	携帯電話	156	携帯電話	34	学校	14	子ども	32	生徒	34	生徒	34	生徒	44	果	26	ルール	24	指導	17	子ども	40
調査	41	調査	117	生徒	155	暴力	31	生徒	13	女子	18	携帯電話	28	子ども	40	トラブル	37	認知	24	親	24	検定	16	高校	30
教委	39	果	112	調査	122	果	27	玉	12	男子	18	人	28	果	37	認知	24	事業	20	相談	19	投資	15	自殺	30
携帯電話	38	子ども	109	サイト	108	高校	27	情報	12	問題	18	メール	18	メール	28	LINE	36	教育	23	学校	19	意見	14	相談	29
風	37	教委	88	高校	107	サイト	25	内容	12	教委	15	利用	23	問題	23	問題	36	高校	21	子ども	19	意見	14	相談	27
高校	37	教委	88	子ども	104	書き込み	25	無視	12	自殺	15	利用	23	教育	23	教育	31	ルール	19	対策	18	傍観	14	教員	26
メール	32	相談	84	教委	102	携帯電話	24	説明	11	相談	15	スマホ	21	調査	21	調査	27	教委	19	問題	18	改定	13	SNS	25
風内	32	サイト	80	問題	82	保護	23	戦う	11	教師	14	使う	21	高校	26	小学校	26	小学校	19	トラブル	17	書く	13	保護	25
中蔵	32	教育	72	教育	81	調査	22	相談	11	高校	14	ライン	20	年	20	調査	26	調査	18	子	17	対策	13	対応	23
問題	32	暴力	67	対策	79	調査	22	サイト	10	持つ	13	持つ	13	持つ	20	防止	26	年	17	防止	17	防止	12	問題	21
サイト	31	問題	62	携帯電話	76	月	21	親	10	番号	10	番号	13	話す	19	市	25	年	17	月	17	考える	11	対策	20
情報	31	月	61	年	75	子ども	21	問題	10	SOS	12	サイト	18	市	18	市	25	問題	17	月	14	果	11	話す	19
対応	30	風内	61	持つ	74	利用	20	ケータイ	9	フジテレビ	12	トラブル	18	事業	18	事業	24	子ども	16	税	14	子ども	11	女子	18
掲示板	29	年	60	書き込み	73	多い	19	多い	9	教育	12	情報	18	考える	23	中学校	23	中学校	16	年	14	調査	11	考える	17
自殺	27	情報	59	保護	73	年	9	年	9	教員	12	対策	18	予算	18	予算	23	対策	15	LINE	13	求める	10	受ける	16
書き込み	27	保護	59	事業	72	児童	18	前す	9	果	12	ケータイ	17	人	22	教育	22	教育	14	支援	13	月	10	投稿	16
児童	25	インターネット	58	月	70	前年度	17	本	9	年	12	高校生	17	選挙	17	選挙	20	増える	14	保護	13	市教委	10	月	15
年	25	学校裏サイト	58	雇用	70	前年度	18	暴力	9	全国	12	高校生	17	選挙	17	選挙	20	増える	14	保護	13	市教委	10	月	15
月	24	書き込み	53	暴力	66	危険	16	外交	8	月	11	保護	17	思う	19	窓口	19	前年度	13	加害	12	自決	10	昨年	15
中学校	24	対策	53	情報	65	教委	16	教委	8	国	11	関係	16	中学校	16	中学校	18	前年度	13	加害	12	男らしい	10	年	15
相談	23	中蔵	53	自殺	64	件数	15	月	8	受ける	11	果	16	児童	16	児童	18	スマホ	12	SNS	11	利用	10	LINE	14
件数	22	掲示板	52	社会	64	問題	14	見る	8	人権	11	親	16	説明	17	演る	18	関係	12	利用	12	年	10	LINE	14
書き込み	22	児童	51	メール	61	行為	13	言葉	8	対策	11	携帯	15	個人	17	演る	18	関係	12	SNS	11	利用	10	虐待	14
子ども	21	メール	50	禁止	60	高校生	13	高校	8	中学	11	携帯	15	個人	17	特別支援学校	12	通人	11	LINE	9	報告	9	投稿	14
対策	21	増える	49	果内	60	人	13	子	8	調査	11	説明	15	相対	15	相対	17	防止	12	話す	11	見る	9	防止	14
保護	21	中学	46	中学校	58	中学	13	思う	8	委員	10	防止	15	話す	15	情報	16	解決	17	ライン	11	出る	9	果	13
公立	20	全国	45	説明	57	個人	12	事件	8	教諭	10	友だち	10	相対	14	政治	16	公立	11	説明	10	感じる	8	加害	12
使う	20	件数	43	世界	52	認知	12	写真	8	公立	10	自分	10	相対	14	推進	16	解通	11	参加	10	悪口	8	加害	13
報告	20	行為	42	中学	52	人権	11	手引	8	自分	10	相対	10	対応	14	大津	16	考える	11	説明	10	出る	9	果	13
暴力	20	対策	43	学校裏サイト	51	メール	11	政府	8	人間	9	年	10	対応	14	調査	15	取り組み	11	スタッフ	9	説明	8	委申	12
認知	19	被害	42	使う	51	果内	11	責任	8	果内	9	年	10	対応	14	調査	15	取り組み	11	スタッフ	9	説明	8	委申	12
ハッシュ	18	指導	40	全国	48	相談	11	話す	8	人	9	編集	14	子	15	市長	15	説明	11	意見	8	必読	8	被害	12
教育	18	持つ	40	必要	47	予算	11	クラス	7	対応	9	機関	13	市	15	市長	15	説明	11	意見	8	必読	8	被害	12
削除	18	利用	40	女子	46	インターネット	10	平面	7	大阪	9	教委	13	設置	13	設置	15	スマートフォン	10	教育	9	匿名	8	委員	11
小学校	18	公立	39	監視	44	学校裏サイト	10	学ぶ	7	中蔵	9	月	13	小学校	13	小学校	14	多い	10	教員	9	防止	8	委員	11
内容	18	中学校	37	公立	44	果	10	教委	9	話す	8	果	13	アンケート	13	対応	13	対応	10	研究	8	回収	7	現職	11
市教委	17	前年度	36	指導	44	公立	10	件数	7	果	8	写真	13	委員会	13	委員会	13	委員会	10	市	9	ガイドライン	7	現職	11
事件	17	窓口	35	児童	43	自分	10	果	7	果	8	社会	13	開く	13	開く	13	保護	10	写真	9	クラス	7	現職	11
全国	17	受ける	34	多い	43	授業	10	公電	7	果	8	書く	13	前年度	13	前年度	13	相対	9	場合	9	グループ	7	全国	11
HP	16	親	35	受ける	42	小学校	10	自殺	7	差別	8	犯罪	13	前年度	13	前年度	13	相対	9	場合	9	グループ	7	全国	11
受ける	16	携帯電話	33	予算	42	中学校	10	自由	7	子	8	LINE	12	対応	13	携帯電話	9	予算	9	調査	9	トラブル	7	中蔵	11
利用	16	高校生	33	家庭	41	中学生	10	相手	7	取り組み	8	LINE	12	対応	13	携帯電話	9	予算	9	調査	9	トラブル	7	中蔵	11
委員	15	使う	33	書き込み	41	特別支援学校	7	授業	7	授業	8	受ける	12	携帯電話	12	携帯電話	13	使う	9	開く	8	家庭	7	道	11
教師	15	実施	33	中蔵	41	話す	10	暴論	7	書き込み	8	中学生	12	トラブル	12	トラブル	12	両方	9	指導	8	使う	7	閉く	11
匿名	15	対応	32	小学校	40	ほか	9	メディア	6	知る	8	調査	11	書く	12	両方	12	両方	9	指導	8	使う	7	閉く	11
話す	15	英語	33	知る	40	関係	9	各国	6	中学校	8	調査	11	書く	12	両方	12	両方	9	指導	8	使う	7	閉く	11
行為	14	話す	31	ルール	38	企業	9	落	6	保護	8	調査	11	書く	12	両方	12	両方	9	指導	8	使う	7	閉く	11

さらに、年ごとに上位語を整理してみよう。表2は2007年から2018年までの出現回数上位50語を並べたものである。「携帯電話」という語がずっと上位を占めていたが、2014年以降は上位50語に入っていない。変わって、2013年には「スマホ」が上位50語に出現し、「スマートフォン」という語とともにたびたび上位になっている。「学校裏サイト」は2008年に58回出現、2009年にも51回出現していた。2010年にも10回出現しているが、これ以降、上位50語には登場していない。一方、「LINE」「ライン」は2013年に上位50語に登場、以降2018年まで上位50語の中の一つを占め続けている。「ツイッター」も2013年に上位50語に登場しており、この時期がそれより少し前に、ネットいじめの場合は「学校裏サイト」から「LINE」などのSNSに移っていったことが読み取れる。

2011 年は「外交」「宇宙」「政府」「各国」などの語が見られる。一見、ネットいじめと無関係に思えるが、これは「(ザ・コラム) ウィキリークス 『超国家』 ネット告発の衝撃」という長文記事の中に「ネットいじめ」が含まれているからであり、2011 年はネットいじめをキーワードに持つ記事数が 8 本と少なく、1 つ 1 つの記事の影響を受けやすくなったことによるとみてよい。

2013 年以降は、「トラブル」という語が上位 50 語に入り続けている。「LINE」をめぐる「トラブル」という記事が多く、「LINE」そのものはコミュニケーションアプリであるが、それを利用しているうちに「トラブル」になったり巻き込まれたりする様子が考えられる。

(3) 関連語分析

表3 「学校裏サイト」との関連語

	語	共起	Jaccard
1	監視	26 (0.224)	0.1615
2	書き込み	38 (0.328)	0.1502
3	掲示板	31 (0.267)	0.1422
4	サイト	37 (0.319)	0.1178
5	中傷	27 (0.233)	0.1102
6	温床	13 (0.112)	0.1074
7	プロフ	16 (0.138)	0.1026
8	ネット	61 (0.526)	0.0866
9	パソコン	16 (0.138)	0.0825
10	削除	14 (0.121)	0.0819
11	情報	24 (0.207)	0.0808
12	紹介	14 (0.121)	0.0795
13	委託	11 (0.095)	0.0775
14	非公式	9 (0.078)	0.0750
15	学校	42 (0.362)	0.0749
16	依頼	11 (0.095)	0.0738
17	携帯電話	30 (0.259)	0.0723
18	交換	9 (0.078)	0.0692
19	公式	8 (0.069)	0.0690
20	書き込む	14 (0.121)	0.0686

ネットいじめの「場」と「ツール」に絞って、関連語について見てみよう。ネットいじめの「場」は「学校裏サイト」「LINE」を、「ツール」は「携帯電話」「パソコン」「スマホ」をそれぞれ選び、関連語を並べてみたのが次の表である²。

集計単位は「段落」で指定し、「文書数」はそれぞれの語（学校裏サイト、LINE、携帯電話、パソコン、スマホ）との and 検索で登場した文書（段落）の数を意味している。そして、共起、すなわち条件つき確率を示した。

「学校裏サイト」（文書数 116）においては、「監視」「中傷」「温床」などの語との関連性が高いことが分かる。とりわけ「中傷」や「温床」との関連が強いということは、「学校裏サイト」に「中傷」の書き込みが多く、ネットいじめの「温床」となっているとする記事が多いということがわかる。Jaccard 係数でいえば、「携帯電話」より「パソコン」の方がより関連が強くなっている。先に検討したように、記事全体では「パソコン」より「携帯電話」の方が登場回数は多いが、「学校裏サイト」では「パソコン」の方により関連が強い。学校裏サイトが掲示板でのコミュニケーションであり、掲示板へのアクセスは携帯電話からもパソコンからもできることを

反映しているのだろう。

「LINE」（文書数 71）に関しては、「アプリ」「無料」「グループ」「メッセージ」などの語と

² 「SNS」については、出現回数がそれほど多くないため、今回の分析からは除外したが、さまざまな指摘にあるように、ネットいじめにおいて重要な場であることには違いないだろう。

表4 「LINE」関連語

	語	共起	Jaccard
1	アプリ	18 (0.254)	0.1895
2	ライン	17 (0.239)	0.1868
3	通信	15 (0.211)	0.1546
4	無料	15 (0.211)	0.1500
5	グループ	14 (0.197)	0.1429
6	メッセージ	11 (0.155)	0.1183
7	スマートフォン	10 (0.141)	0.0990
8	ツイッター	9 (0.127)	0.0989
9	スマホ	9 (0.127)	0.0826
10	SNS	8 (0.113)	0.0748
11	トラブル	15 (0.211)	0.0735
12	外す	5 (0.070)	0.0667
13	スタンプ	5 (0.070)	0.0667
14	フェイスブック	5 (0.070)	0.0658
15	報告	9 (0.127)	0.0545
16	上演	4 (0.056)	0.0541
17	やり取り	4 (0.056)	0.0519
18	現状	5 (0.070)	0.0500
19	生徒	27 (0.380)	0.0491
20	解説	4 (0.056)	0.0488

表5 「パソコン」との関連語

	語	共起	Jaccard
1	携帯電話	71 (0.755)	0.2017
2	中傷	41 (0.436)	0.1962
3	誹謗	15 (0.160)	0.1316
4	使う	27 (0.287)	0.1174
5	前年度	19 (0.202)	0.0974
6	高い	11 (0.117)	0.0902
7	ネット	59 (0.628)	0.0863
8	学校裏サイト	16 (0.170)	0.0825
9	嫌	9 (0.096)	0.0763
10	内容	14 (0.149)	0.0707
11	認知	12 (0.128)	0.0674
12	嫌がらせ	8 (0.085)	0.0650
13	教委	21 (0.223)	0.0634
14	悪口	12 (0.128)	0.0612
15	増加	8 (0.085)	0.0611
16	増える	13 (0.138)	0.0605
17	県	27 (0.287)	0.0595
18	文部科学省	10 (0.106)	0.0592
19	調査	22 (0.234)	0.0579
20	サイト	18 (0.191)	0.0579

表6 「携帯電話」との関連語

	語	共起	Jaccard
1	パソコン	72 (0.218)	0.2028
2	ネット	141 (0.427)	0.1636
3	持つ	65 (0.197)	0.1563
4	使う	63 (0.191)	0.1462
5	県	84 (0.255)	0.1319
6	教委	66 (0.200)	0.1260
7	保護	61 (0.185)	0.1255
8	サイト	63 (0.191)	0.1250
9	学校	93 (0.282)	0.1247
10	高校	67 (0.203)	0.1155
11	子ども	70 (0.212)	0.1124
12	調査	65 (0.197)	0.1121
13	インターネット	52 (0.158)	0.1113
14	中傷	47 (0.142)	0.1056
15	利用	44 (0.133)	0.1014
16	禁止	33 (0.100)	0.0930
17	県内	42 (0.127)	0.0866
18	原則	29 (0.088)	0.0848
19	トラブル	37 (0.112)	0.0839
20	小中学校	32 (0.097)	0.0838

表7 「スマホ」との関連語

	語	共起	Jaccard
1	アプリ	7 (0.149)	0.0854
2	LINE	9 (0.191)	0.0826
3	半数	5 (0.106)	0.0769
4	スマートフォン	6 (0.128)	0.0741
5	ケータイ	6 (0.128)	0.0682
6	導入	5 (0.106)	0.0658
7	防ぐ	5 (0.106)	0.0641
8	ライン	5 (0.106)	0.0633
9	コミュニケーション	4 (0.085)	0.0615
10	ルール	8 (0.170)	0.0593
11	使用	6 (0.128)	0.0577
12	使う	11 (0.234)	0.0550
13	午後	4 (0.085)	0.0541
14	手引	3 (0.064)	0.0508
15	使い方	4 (0.085)	0.0506
16	フィルタリング	5 (0.106)	0.0500
17	利用	9 (0.191)	0.0484
18	高校生	6 (0.128)	0.0444
19	中学生	6 (0.128)	0.0444
20	ゲーム	3 (0.064)	0.0441

関連性が強い。つまり「LINE」についての説明的な語との関連性が強い。「学校裏サイト」に比べると、ネガティブな意味づけはそれほど強くなく、中立的でもある。「学校裏サイト」は中学生・高校生が利用するサイトであるのに対し、LINE は幅広い世代に利用されていることという違いがあり、「学校裏サイト」の方が一般の人からより分かりにくいものとして表象されていると見るができるかもしれない。あるいは、LINE は企業制作アプリであり、危険視するのに慎重になるという側面もありうるだろう（その企業自体が問題を起こしているわけではないのに危険視するのはバランスが取れない）。

「パソコン」（文書数 97）については、「中傷」「誹謗」「学校裏サイト」「嫌がらせ」などとの関連性が強い。パソコンを使って「中傷」を書くという構図を見ることができる。

「携帯電話」（文書数 330）は「学校」「教委」などとの関連が見られる。また「持つ」や「使う」などの動詞との関連性も強い。一つの解釈として、携帯電話は「学校」や「教委」が対策したり調査したりすることが多く、そうした経緯が記事に反映されて、関連性の強さとして出ているのではないか。

「スマホ」（文書数 47）は文書数が少ないため、参考として示すにとどめる。

ネットいじめに関する語についても、それらの記事での表れ方は異なっている。「学校裏サイト」「パソコン」が非常にネガティブな表れ方をしていたのに対し、「LINE」「携帯電話」はそれほどでもない。これには、時期も関係しているだろう。「学校裏サイト」が問題視されたのは 00 年代後半で、ネットいじめが深刻と言われ出した時期（田川 2012:90-91 頁）と重なる。したがって、そうした表出のされ方が多くなされた。一方、教育的な対応や対策が言われることの多くなった 10 年代以降は、記事のあり方が多様化し、その中に「LINE」や「携帯電話」が位置づいたとも考えられるだろう。

(4) 時期区分による分析

時期をどう区切るかはさまざまな基準が考えられる。内容的に区切ることも、等間隔に区切ることも可能だが、本研究では、10 年、15 年という区切りの年で区切りたい。どういう区切り方をするのが妥当かは議論のあるところだろうが、5 年ごとに区切るということには慣習的な方法としては比較的妥当と思われる。さらに今後の研究の継続性も考え、5 年ずつで区切るということを今回は採用したい。朝日新聞では 2007 年よりネットいじめをキーワードとする記事が登場するため、2007 年から 2010 年までをⅠ期、2011 年から 2015 年までをⅡ期、2016 年から 2018 年現在までをⅢ期として語と語の関連や布置、共起関係を多次元尺度構成法と共起ネットワークにより分析したい。なお、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期で記事数が異なり、出現回数の多寡に関係することから、Ⅰ期は最小出現語数 80、Ⅱ期は最小出現語数 40、Ⅲ期は最小出現語数 20 として分析を行った。

① ネットいじめⅠ期(2007-10)

図 2 の多次元尺度構成法の結果を見ると、Ⅰ期では「学校裏サイト」の周辺に「書き込み」「中傷」「対応」「対策」などがある。

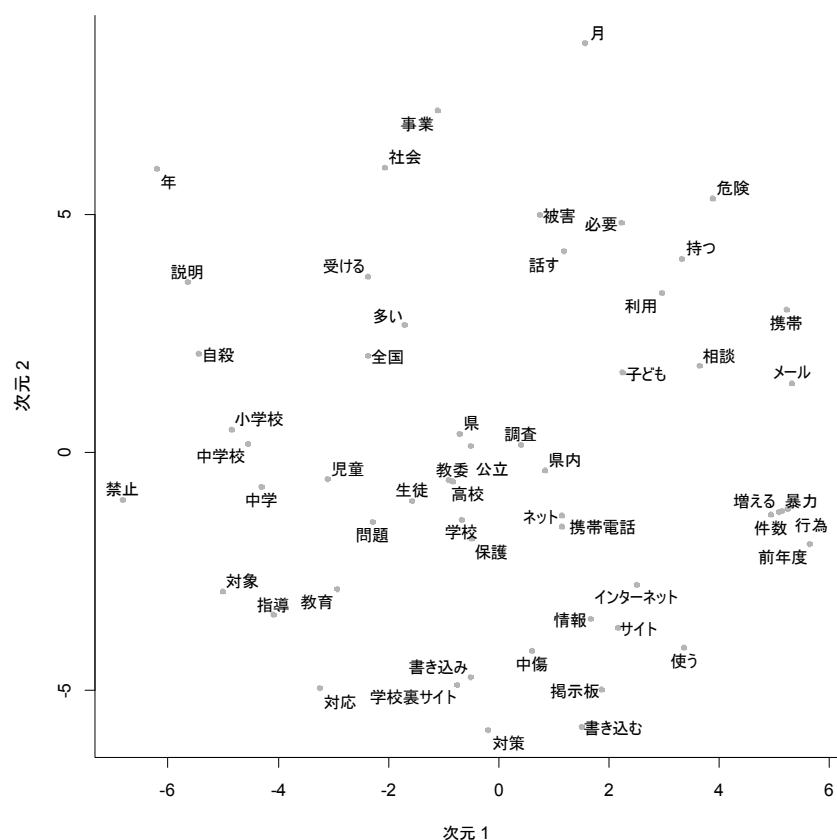
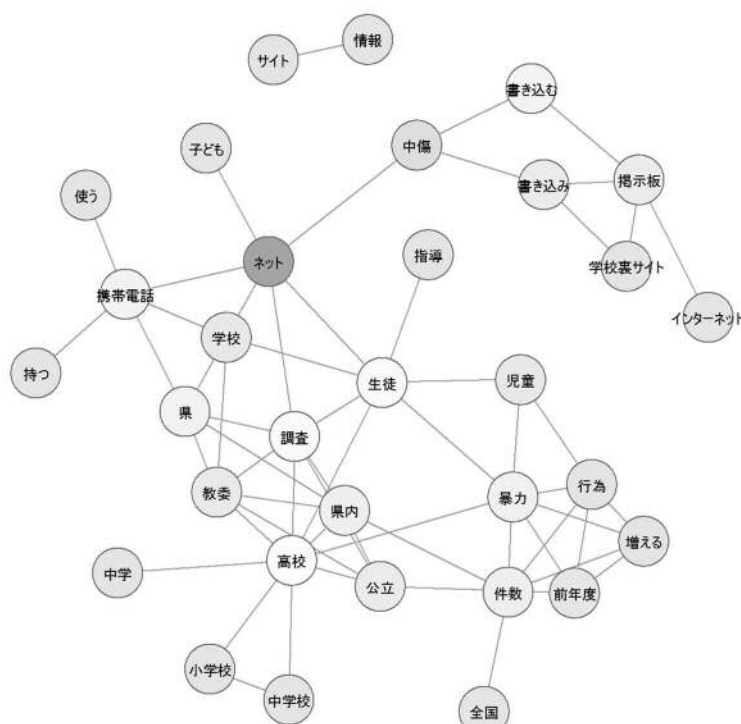


図2 多次元尺度構成法 (I 期)



Nodes 32(55), Edges 60(1376), Density .121, Min. Jaccard .146

図3 共起ネットワーク (I 期)

共起ネットワークでは、より明確に語と語の連関を見ることができる。図3を見ると、「ネット」と「中傷」の強い結びつきを見ることができる。さらに、「携帯電話」とも結びついており、「携帯電話」から「ネット」にアクセスという行為を想起させる。一方、「書き込み」という語について、「中傷」と「学校裏サイト」の共起関係が見られることから、ネットいじめI期においては、「中傷」が大きな問題としてクローズアップされているとみられる。ネットいじめ言説はI期において、「学校裏サイト」や「中傷」として具体的にイメージされているとみてよいだろう。

② ネットいじめ II 期 (2011-15)

図4の多次元尺度構成法の結果を見ると、「LINE」の周辺に「メール」「スマホ」「人」などの語を確認できる。「携帯電話」は「ネット」「持つ」「使う」などの語が周囲にある。「県」と「教委」「調査」などが近くにあり、県が中心になって調査を行っている

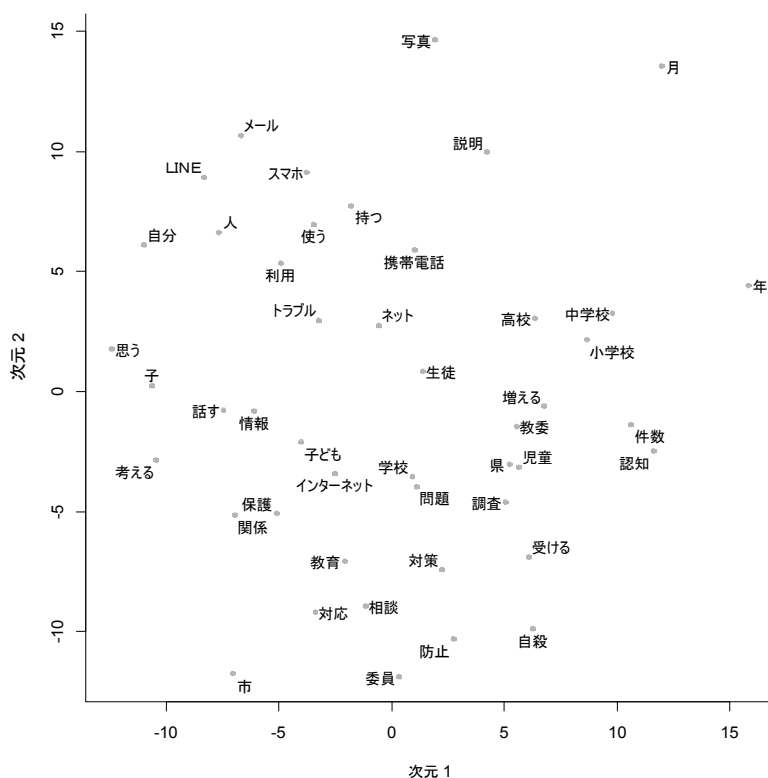
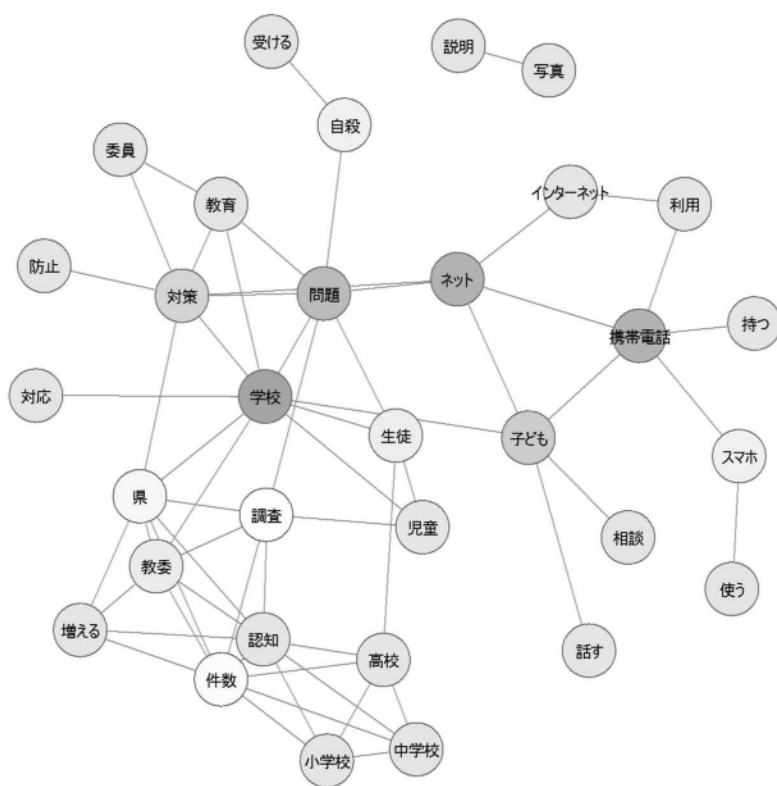


図4 多次元尺度構成法 (II 期)



Nodes 32(46), Edges 60(838), Density .121, Min. Jaccard .108

図5 共起ネットワーク (II 期)

様子がうかがえる。

さらに図5の共起ネットワーク
ワークも見てみよう。

「学校」「問題」「対策」
がトライアングルの形にな
っている。「携帯電話」につ
いては、「利用」「子ども」
「スマホ」「持つ」などが共
起関係となっている。

③ネットいじめ III 期
(2016-)

図6の多次元尺度構成法の結果からは、「LINE」の周辺に「対応」「対策」「トラブル」などがある。Ⅰ期とⅡ期では中央あたりに布置されていた「県」という語はⅢ期では右辺に位置づいている。

図7の共起ネットワークを見ると、「SNS」と「問題」に結びつきを見ることができる。「LINE」は「トラブル」と結びついている。「学校裏サイト」が中傷の書き込みという一方向性を想起させるのに対し、「LINE」は「トラブル」という形で、利用しているうちにトラブルになったり、トラブルに巻き込まれたりという双方向性や多様性を想起させる。

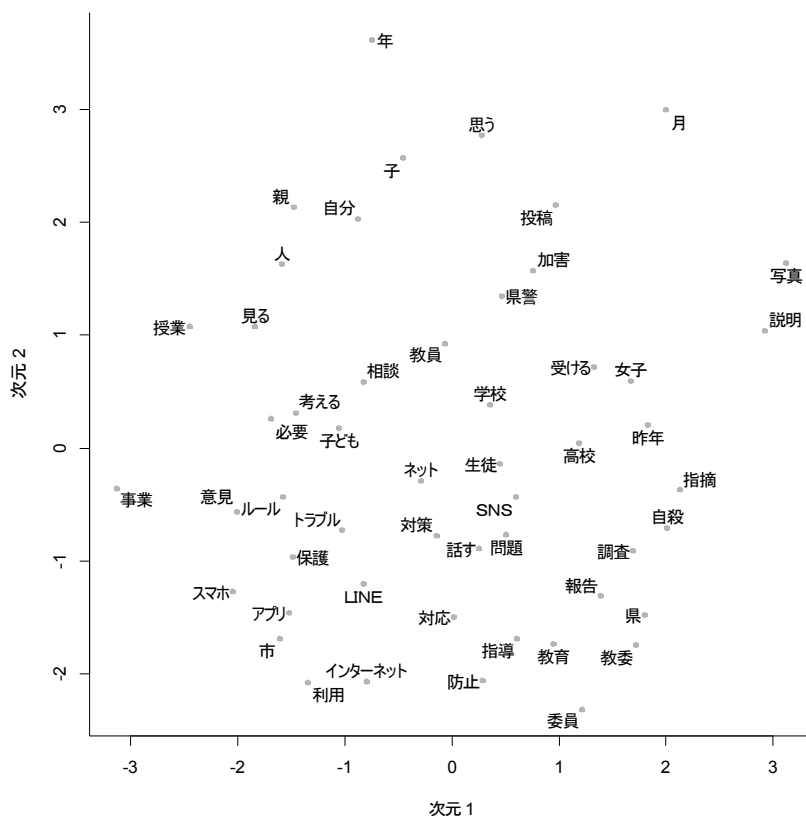
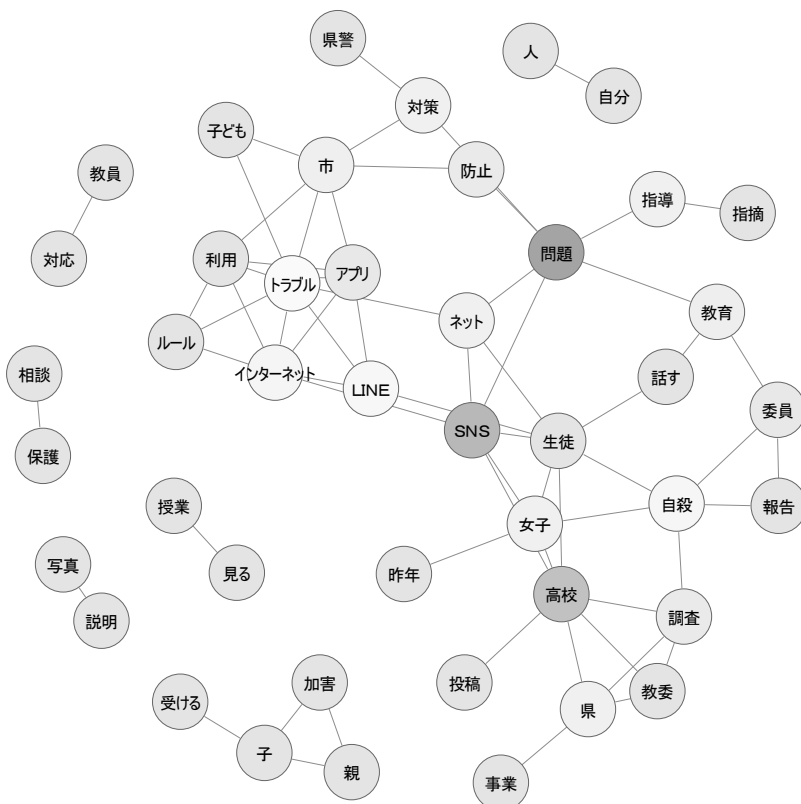


図6 多次元尺度構成法 (III期)



Nodes 44(52), Edges 65(929), Density .069, Min. Jaccard .125

図7 共起ネットワーク (III期)

4. まとめ

(1) 知見の整理

ここまで、ネットいじめ言説を朝日新聞記事という限定的な形ではあるが、時系列や時期区分による変化を検討してきた。ネットいじめ言説の布置の変化は頻出語分析と多次元尺度構成法で、共起関係の変化は関連語分析と共起ネットワークの時期区分分析で見ることができる。知見を整理すると以下になる。

①頻出語分析

「携帯電話」という語はずっと上位を占めていたが、2014年以降は上位50語に出現しない。それに代わって出現するのが「スマホ」である。

「学校裏サイト」は2010年までは上位を占めていたが、2011年以降上位に出現しない。一方、「LINE」「ライン」は、2013年に出現して以降、今日まで上位をし続けている。また2013年以降は「トラブル」という語が上位を占め続けており、ネットいじめ言説は「トラブル」という形で言及されることが多く

なっている。

②関連語分析

「学校裏サイト」「LINE」「携帯電話」「パソコン」関連語を分析した。「スマホ」については参考にとどめた。

「学校裏サイト」については、「監視」「温床」「中傷」などとの関連が強いことがわかった。

「LINE」は、「アプリ」「無料」「グループ」「メッセージ」との関連が強い。「携帯電話」は「学校」「教委」などとの関連が見られるほか、「持つ」や「使う」という動詞との関連性も強かった。「パソコン」については、「中傷」「誹謗」「学校裏サイト」「嫌がらせ」などとの関連が見られた。

③時期区分による分析

新聞記事の見られた2007年から2010年までをⅠ期、2011年から2015年までをⅡ期、2016年から現在までをⅢ期として、語の布置や共起関係についての分析を行った。抽出語分析や関連語分析の結果とも関係が深く、Ⅰ期では「学校裏サイト」との関連が見られ、Ⅱ期、Ⅲ期ではそれが「LINE」へとおきかわっていく。また、「トラブル」という形での言及が多くなっていくという特徴も見られた。

記事数はネットいじめ言説Ⅰ期が多く、Ⅱ期、Ⅲ期は年に10から20本程度である。記事数の多い時期は、「学校裏サイト」についての言及が多かった。Ⅰ期の記事数の多い背景には、「学校裏サイト」のもつ「裏」という感覚、大人の目が届きにくいところという「不気味さ」が背景にあるのではないか。「監視」「中傷」「温床」「プロフ」などとの関連の強さから考えると、「監視」しなければならないもの、「中傷」が書き込まれることが多いこと、ネットいじめの「温床」になること、目の届きにくい「プロフ」と似たところがあること、などが想起される。それに対し、Ⅱ期やⅢ期でみられる「LINE」については、「温床」などとの関連は見られない。これは「LINE」が子どもや若者だけでなく、幅広い世代に使われているということも背景にあるだろう。したがって、「不気味さ」というのはそれほど感じられない。かわって出現するのは「トラブル」であり、「LINE」を使っているうちにトラブルになったりトラブルにまきこまれるというものである。

(2) ネットいじめ「実態」との関連

ここで「実態」との関係で考察してみたい。加納は、ネットいじめの種類を内輪型、喧伝型、便乗型の3つに整理している。内輪型ではLINEにおけるグループはずしのような例が典型である。喧伝型ではリベンジポルノやアイコンラ、便乗型では娯楽感覚のいじめ動画視聴・保存や煽りがある(加納 2016: 67-72 頁)。

この点から考えると、ネットいじめ言説は内輪型の言説が多いと言える。学校裏サイトに中傷を書かれることも、LINEで嫌なことを言われたりグループをはずされたりするのも、学校的な人間関係を背景にもつ内輪的ないじめである。一方で、不快な写真をばらまいたり(喧伝型)、自らの快楽を満たすためにいじめに参加する便乗型の言説は多くなかった。実態として

「ある」のに記事として「ない」のか、実態自体があまり多くないのか、その実態は別の言説化がなされているのか (例えばリベンジポルノではストーカーなど)、検討が必要である。言説化という観点からみると、喧伝型や便乗型は捨象され、内輪型として表象されやすいということは指摘しておいてよいだろう。その意味では、ネットいじめ言説は学校裏サイトから LINE や SNS へという変化が見られるが、その底には内輪型という共通性、ないしは一貫性があるということである。

今後の課題を示しておきたい。今回、ネットいじめ言説の分析に朝日新聞を取り上げたが、当然他の新聞では言説化の様態が異なると考えられる。その点は重要だと考えているが、さらには、ネットいじめはネットニュースやブログ、SNS といったネットメディアにおいてよく論じられていることから、ネットいじめ言説の分析にはネットメディアの分析が必須だろう。ネットメディアにおいて、ネットいじめがどのように取り上げられているかという点については、今後取り組んでいきたいと考えている。

計量テキスト分析は、近年急速に広まっている手法である。研究が急速に蓄積されてきているが、開発途上でもあり本手法についての課題も考えていく必要がある。とりわけデータ取得にどう客観性を持たせるかという点で課題がある。ツイッター分析においては、データ取得に興味深い方法が開発されてきているが³、その意味では先ほどあげたネットメディアの分析でも、手法を慎重に検討しながら行っていきたいと考えている。

文献

- 香川七海 (2013) 『『ネットいじめ』言説の陥穽—渡辺真由子『大人の知らないネットいじめの真実』に見られる「ネットいじめ」事例の<解説>から—』『子ども教育研究』第5号、35-44頁。
- 香川七海 (2016) 「青少年女子によるインターネットを媒介とした他者との<出会い>—『ネットいじめ』言説の興隆期に着目して—」『質的心理学研究』第15号、7-25頁。
- 加納寛子 (2016) 「ネットいじめの特異性」加納寛子編著『ネットいじめの構造と対処・予防』金子書房。
- 松浦智之・當仲寛哲・大野浩之 (2018) 「小規模構成で実施可能な大量ツイート分析手法の提案 (1) —『パルス』ツイートを対象とした収集方法検証」『情報処理学会第80回大会』4B-02。
- 内藤朝雄 (2016) 「インターネットを用いたいじめや迫害をめぐる諸問題—「延長された表現形」として増幅させるブースター効果—」加納寛子編著『ネットいじめの構造と対処・予防』金子書房。
- 下田博次 (2008) 『学校裏サイト—ケータイ無法地帯から子どもを救う方法—』東洋経済新報社。
- 田川隆博 (2012) 「ネットいじめ言説の特徴—新聞記事の内容分析から—」『名古屋文理大学紀要』第12号、89-95頁。

³ たとえば、松浦智之ら (2018) は、PC1台でのツイート取得・分析する方法を提案しており、無料のTwitter API を利用してツイートを取得する方法で、模倣が容易である。